２０１１年 2月11日
No 1130号
働くルールの確立で
人間性の回復を

明治乳業争議団 ニュース

発　行　明治乳業争議団
連絡先　〒272-0015
千葉県市川市鬼高2-6-2
☎・Fax 047-332-5698
E-mail　mjnyu88sgd@wing.ocn.ne.jp
ＨＰ　明治乳業争議団 ⇒ 検索

明治ホールディングスの事業再編
「統合効果」の早期実現というが＝その裏には

徹底した労働コスト・労働条件の切り下げが

この４月に実施されようとしている明治ＨＤの「事業再編」。子会社である明治製菓、明治乳業ともに業績に疲弊感を漂わせるなかでの断行です。特に明治製菓の業績不振には著しいものがあります。単純に両社合算しても営業利益は統合前を下回っています（08年３月期と10年３月期比較）。

明治ＨＤ経営陣が、ことあるごとに口にするのは「統合シナジー（相乗効果）の早期実現」であり、２年前の経営統合以来、製菓・乳業の相乗効果を目指してきましたが、必ずしもその効果が発揮されているとはいえません。

今回の事業再編は、こうした事態を強引に乗り切ろうとする、ある意味ではリスクをともなう行為ともいえます。ＨＤの佐藤社長は「感傷に浸っている場合ではない」といいますが、一方では社名変更までして「両社を一体化させるのは荒技」（週刊東洋経済）ではないかという声もあります。

再編を中心にすえた「２０２０ビジョン」では、国内事業の強化・拡大に努め、海外にも存在感を示すなどといいます。しかし、こうした外向けアピールの陰で目を離してならないのは、業績低下を乗り切るために、どう賃金を中心とする労働コストを下げ労働条件を切り下げるかがあります。ことに明治製菓においてその動きは顕著であり、これこそが事業再編の大きな柱といっても過言ではありません。

賃金引下げする一遇のチャンス 危機感つのらせる明菓社員

統合や再編は、賃金や労働条件などに差異のある両社を一体化するものです。この機をねらった大幅な賃金ダウンがすでに提起されています。

まず、製菓と乳業の２社間には大きな賃金格差があります。食品業界年収ランキングによれば、明治製菓が約７６９万円（14位）なのに対し明治乳業は約６４６万円（41位）であり、１２０万円以上もの格差があります。この格差を一本化するにあたっては低い方に合わせるのが、すでに再編をしている多くの企業の姿であり、明治ＨＤにとって今回の再編は賃金ダウンの一遇のチャンスなのです。

すでに出されている賃金体系、報酬制度はそのことを物語っており、調整給や激変緩和措置などで一時的に目先を誤魔化しても、究極的には大幅な賃金低下が予想されます。

グループ全体を視野にいれた人事が 典型的な人員削減策

労働条件。特に人事異動の項では、新たにできる食品会社と薬品会社間で転籍が認められており、さらには明治グループ全体を視野に入れた出向なども提起されています。グループ内連結子会社は52社。全体では１００社に及び、出向先は限りなく広がり全国にわたります。提案では「人員削減は行なわない」などといいますが、強引な転籍・出向・配転などに応じられない社員は自主退職をよぎなくされます。これは多くの大企業が行なっているリストラの典型的な人員削減策であり、事業再編の裏に見え隠れしています。

すでに一ヵ月後にせまった大型再編。雇用・くらし・労働条件・賃金などに激変が予想され、これからの働く人たちを守っていくことが大きな課題となっています。

明乳争議と私

四街道年金者組合員 野川和一さん

私しは静岡県御前崎で７人兄弟の末っ子として昭和２年に生まれた。

戦争には18歳の時「赤紙」で召集され、九州で終戦を迎えたが、軍隊の思い出は連日の「往復ビンタ」でしかない。

公務員であった私は「レットパージ」の第１号でもあったが、粘り強く農林省へと復帰した。以降、定年まで労働運動に身をおいてきた。

明乳争議とは、四街道在住の争議団員との出会いから「社長宅要請行動」に参加したことから始まる。定年を迎えてすでに十数年での出来事ではあったが、「権力の攻撃」はどこでも同じパターンであることを再び知ることとなった。今では、「明乳争議千葉支援共闘会議」の幹事に名を連ねることとなり、少しでも力になれたらと思っている。

２月20日の「社長宅要請行動」には、参加しようと思っているが、この頃、「野川さん、歳はいくつですか」と聞かれることが多くなった。しかし、「人は夢ある限り青春であり、夢をなくした瞬間から老いがはじまる」の言葉通り、歳は重ねても、私はまだまだ青春を生きているつもりである。

たたかいの中で出会う若い人たちとの会話は、心だけでなく体に流れる血さえも勢いを増すことをしみじみと感じているこの頃でもある。

今では、庭にある小さな畑を耕し、少しばかりの野菜を知人や、ご近所に配ること、そして明乳争議の闘いへの参加が、大きな喜びであり「青春を生きる」私の源泉であるかもしれない。

野川和一さん

東京都労働委員会へ向けた
団体署名にご協力をお願いします

労使紛争を、２６年も労働委員会や司法の場で争うことを、まったく恥じることのない明治乳業。そしてこの間、当事者として一度も話し合いに応じることもない異常な労務政策。

私たちは全労連の支援決議を頂き、労働委員会に対し、「労働委員会制度設立趣旨」を踏まえた、迅速、正確な審査指揮による救済命令、及び早期全面解決への道筋を開く審査指揮を求めた団体署名に取り組んでいます。

皆さんの一層のご協力をおねがいします。

団員の横顔

全国事件 埼玉工場申立人 杉山年男

埼玉県北の山村児玉町の出身１９３９年生まれ。１９５５年明乳戸田橋工場（現関東工場）入社。

早くから労働組合に関心を持ち、積極的に参加してきました。深夜勤務の導入など過酷な勤務形態が拡大するなかで職場要求を基礎にした労働組合活動が盛んな時期に執行委員として奮闘。青年婦人部として中心的に活動してきました。

気さくな性格でオルグや集会など、どこでも気軽に出かけてゆきます。争議団や地域の宣伝行動では積極的にハンドマイクを握る貴重な存在です。

また、地域でも信頼が厚く地元では医療生協のボランティアで活動しています。最近の趣味は山野草の収集、栽培でその知識は玄人はだしです。

杉山年男

都労委 審問予定

３月１６日（水）
13:30～15:30

３月２５日（金）
14:00～16:00

＊なお、３月２５日は審問終了後、それ以降の審問のあり方について進行調査が入ります。

ご支援よろしくお願いします。

救済命令めざし都労委に正確な審査指揮求める要請行動

明治乳業「全国事件」は、都労委の審査指揮を巡り重要局面を迎えています。現状は、申立人ら立証の深刻な賃金・昇格差別の実態や、不当労働行為の生々しい事実に対し、格差の「合理的理由」立証など、会社による個別立証が続いています。しかし、その内容は、作業ミスなどの相対比較抜き「アラ捜し個別立証」で、申立人らを「無能力者」「怠け者」と描く極めて異常なものです。

争議団は、支援共闘会議・弁護団との議論を深め、この異常な審査状況を変え、迅速・正確な審理と早期救済命令への審査指揮を求める運動を強めています。1月27日には、支援共闘会議として審査課（安藤課長）への要請行動を行い、①審理・判断に必要な資料（人事考課成績、職分・号給・基本給など）開示を会社に求めること。②相対比較抜き「アラ捜し個別立証」を規制し認めないことの2点を強調し、会社に厳しく求めることの必要性を明確にしました。そして、会社が審理に必要な資料開示を拒否する場合は、申立人らの立証内容に基づく事実認定を行い、これ以上の「アラ捜し個別立証」は無意味なものとして、事件終結に向けた審査指揮を発揮することを強く求めています。

団体署名を積み上げ、さらに要請行動を強めます

この要請に基づく調査期日が、3月25日（16時～17時30分）に予定される等、今後の事件審理・判断を大きく左右する重要局面を迎えています。支援共闘会議と争議団は、このような展開を予測しながら、全労連の全面的支援決議も頂き、昨秋から都労委への団体署名を全国展開で取り組んでいますが、2月以降も団体署名を積み上げながら要請行動を継続し、労働委員会制度の設立趣旨に沿う審査指揮を厳しく求めていきます。そして、不当労働行為・差別の「やり得」を絶対に許さない、民間大企業相手の残された大型争議の終結をめざす闘いとして、今年の早期に勝利解決への道筋を切り開くことを決意し頑張ります。

― 明治HD「社外取締役」の中労委公益委員 ―

抗議・要請行動により、31期（10年11月）では選任されず！

明治HDの社外取締役として、09年度は取締役会13回中12回に出席など、経営に対し活発な助言、意見を述べている佐貫葉子弁護士は、労働者・労働組合の権利擁護にとって、極めて重要な職責にある中央労働委員会の現役公益委員でした。労働委員会は、労使の参与委員を含め三者構成で事件を扱いますが、審査・判断の権限は公益委員にあるのです。

佐貫氏は、30期（08年11月）公益委員に選任されながら、翌年09年4月には、それまでの明治乳業社外監査役から、親会社「明治HD」の取締役に就任したのです。残年ながら、明治乳業は1960年代から労働争議の絶えない企業体質であり、いまでも都労委で全国事件（9事業所32名）の不当労働行為・差別事件が審査中なのです。こんな異常体質の民間大企業の取締役に、中央労働委員会の公益委員が就任するなんて、とても信じられないことです。

明治HD包囲と厚生労働省に「選考基準」の異常さを正す運動の成果！

昨年11月、中央労働委員会委員改選（第期）に向け、労働委員会民主化対策会議は労働者委員の公平任命を求めると同時に、公益委員の選考基準について追及しました。

「民間大企業の取締役が公益代表と言えるのか」等、労働委員会設立の趣旨に照らしての異常さを厳しく指摘し、31期での不選任を求めたのです。

さらに、争議団は、中労委公益委員を承知で取締役に就任させた、明治乳業及び明治HDの異常企業体質を告発する大宣伝を取り組みました。その結果、第31期中労委公益委員に佐貫葉子氏は選任されず、1期だけで退任する異例の結果となったのです。

この問題で明確なのは、①公益委員の職責を知りながら、取締役に据えている明治HDの企業体質、②公益委員の職責にありながら取締役に就任した佐貫葉子氏、③民間大企業の取締役を公益委員に選考した厚生労働省（行政）の責任だと考えます。

新年を迎えて全国各地で「総会」と「旗びらき」が盛大に行われました。

第14回明治乳業争議支援共闘会議総会

明治乳業争議支援共闘会議第１４回総会は１月２２日、東京労働会館で43人が参加して行われ、主催者を代表して支援共闘会議の松本議長は、「今年は勝ちをとりに行く年である。明治乳業は長期争議を解決しないため、業績低迷で営業利益は低下し疲弊感が漂っている」と、業界紙を示しながら指摘し、「たたかう側は、全労連が支援を決定し、明治乳業に全労連の組合員が誕生するなど、争議団の結集、支援体制も強まり、力関係を変えてきている」と、激励。

松井繁明弁護士が、都労委の到達点や問題点、そして展望を語り、永瀬事務局長（東京地評）は、明治HD・明治乳業に対し、都労委全国闘争ならびに会社への争議解決をはかる状況を具体的に示しました。

活発な討論後、小関・争議団団長は、今年は長期争議をどう着地させるか正念場のたたかいであると強調。都労委での無意味なあら探し立証をやめさせ、資料開示と相対比較を明らかにし、救済命令を勝ち取ろうと訴え、同時に、事業再編をめぐる会社包囲の運動を全国的に広げていくと決意を語りました。

引き続き同会館で、恒例の新春「団旗びらき」が47団体83名の参加で行われ、心ゆくまで交流を深めることが出来ました。オープニング演奏を含め勇壮なバチさばきを披露していただいた、習志野地域を軸に活躍の「奏太鼓サークル」の皆さんをはじめ、音楽家ユニオン・デキシーバンド、千葉からの合唱団、琉球古典舞踊を踊ってくれた皆さん等など、出し物も例年以上で、終了予定を大幅にオーバーしました。

踊るのは団員の古小高夫人とその友人

主催者の松本議長、来賓として全労連組織部長・高山さん、東京地評常任幹事・菊池さん、全国都労委事件弁護団団長・松井先生、都労委労働者委員・山口さんなどの方々から、それぞれかかわる立場から激励と連帯のご挨拶をいただきました。　日航の客室乗務員解雇・鈴木さんの訴えもありました。

「奏太鼓サークル」の皆さん

明治乳業争議支援関西共闘会議

一月二十四日八尾市内で開催

「つどい」には川辺関西支援共闘会議議長をはじめ、大阪労連、大阪労連東部地区協、大阪労連阪南地区協、東大阪労連、八尾労連、国民救援会、電力労働運動近畿センター、医療生協などとともに地元八尾の支援者の皆さん二十七人が結集して頂きました。

大阪労連東部地区協議会田中議長の開会挨拶と乾杯音頭で始まり、川辺大阪労連議長、日本共産党おち妙子議員団長、医療生協松岡専務理事、大関八尾労連議長などから激励の挨拶を頂きながら「今年がまさに決戦の年」と決意を固めあいました。

今、会社の最大の標的にされ、全力で奮闘している伊藤団員が「今年が最大の山場になる」と決意を表明し、大阪らしく「一本締め」で闘いの決意を固めあいました。

明治乳業争議を支援する戸田の会

（関東工場：旧戸田橋工場）

「支援する戸田の会」は、恒例となっている「旗びらき」を56名の参加で2月4日に開催しました。

主催者挨拶に立った田中信也議長は、「明治乳業は明治HDの子会社になって2年を経過しようとしている今、更なる事業再編を行うとし、社名さえ変更されようとしています。まさに、今年こそ解決しなければならない年である」と強く訴えました。

地元の埼労連副議長・小石さん、戸田地区労議長・横田さん等、各団体から激励の挨拶が続いた後、二部のアトラクションへ移り、多彩な芸が披露され一段と盛り上がる中、矢口副団長（埼玉争議団長）のお礼と決意が語られ、「団結がんばろう」の三唱で、争議解決へ向けて心を一つにしました。